

開講年度	2026			開講学期	秋学期					
科目コード	L00018			授業コード	15038					
科目名	建築の歴史（単独受講可能科目）				開講曜日・時限	水曜3限				
単位数	2.0			授業形態	講義					
担当教員名【代表】	藤本 幹也（Mikiya Fujimoto）									
担当教員名										
ユニット名	ラ：【2025年度入学生】建築・インテリアコース									
先修条件										
C-PLAT	C		P		L	○	A	○	T	
授業のねらい	主に西洋と東洋における建築歴史を学ぶことを目的とする。古代から近代までの建築を歴史的にみることで、建物のデザインの概念や意図を理解し、さらに、建物はその土地の風土や文化の違いが大きく影響していることを学習することを目的とする。									
授業時間外学習	授業で紹介する古建築や有名建築家の設計した建物について、建築雑誌等の文献で調べ、可能であれば建物の見学をする。また、授業内容に関するレポート及び確認テストをel-campusから実施し、その内容の添削やの解説をするなど授業時間内にフィードバックを行う。									
授業計画										
回	主 題	内容・授業方法・予習および時間・復習および時間・得られる成果など								
1	住まいのはじまり	人々の住まいがどのように誕生し、どのような環境で生活していたのかを世界各地の住まいを例に挙げ風土と建築の関係について学習する。(L) 予習（2時間）：住まいの歴史について石器時代、縄文時代の住まいに関連する内容を予習しておく。 復習（2時間）：世界各地の住環境についてその違いを整理し、世界各地の気候の特徴や文化の違いについても復習する。								
2	石器・縄文・弥生・古墳時代の住まい	原始農耕民族の住まいについて、石器時代、縄文時代、古墳時代の住環境について学習する。また、この時代に誕生した竪穴式住居、高倉について、その用途や使われ方について学習する。(L) 予習（2時間）：石器時代から旧石器時代の竪穴式住居について、その使われ方や、作り方について調べておく。 復習（2時間）：竪穴式住居の空間および、高倉の使われ方について整理し、その用途や時代ごとの変化や違いについて整理しておく。								
3	大和・平安時代の住まいと寺院建築	時代とともに住まい方が変化し、竪穴式住居に関しても、様々な居住スタイルの変化について学習する。また、竪穴式住居以外に発展した寺院建築についてその特徴を学習する。(L) 予習（2時間）：大和時代、平安時代と旧石器時代までの竪穴式住居の生活スタイルや、使われ方、構法の変化や違いについて調べておく。 復習（2時間）：竪穴式住居の各時代の特徴および、住居を構成している部材名称や材料、またこの時代に発達した道具について整理しておく。								
4	神社建築	現存する神社（伊勢神宮、出雲大社、住吉大社）を通して、その建築手法や建物形状について学習する。また、仏教建築についても理解を深める。(L) (A) 予習（2時間）：全国各地にある社寺建築を調べ、建物の特徴および屋根の形状について関連する文献資料に目を通しておく。 復習（2時間）：仏教建築の特徴および、その時代のまちづくりの手法等についても整理しておく。								
5	鎌倉時代から桃山時代のすまい	時代の流れとともに様々な身分階級が誕生し、その身分に応じた居住環境が誕生する。ここでは、町屋、農民の住まいを中心に学習する。また、この時代に誕生した寝殿造りの特徴についても学習する。(L) (A) 予習（2時間）：仏教建築の影響を受けた建物や、その時代の住まいの特徴について、身分階級別にどのような違いがあるか文献で調べておく。 復習（2時間）：寝殿造りの概要や、各部屋の構成、「ハレ」と「ケ」や、室内装飾につかわれていたさまざまな道具について整理しておく。								
6	様々な建築様式（大仏様・禅宗様）	寺院建築、神社建築が焼き討ちや災害で倒壊するなか、全国各地で建物の復興事業が遂行される。その中で様々な工法・構法が開発される。その技術について								

		て学習する。(L) (A) 予習 (2時間): 寺院建築、社寺建築に使用されている屋根の形の種類や、「組物」に関する基礎知識について関連する文献を読んでおく。 復習 (2時間): 組物について、各部名称を整理し、それぞれの役割について整理しておく。
7	寝殿造と書院造りの特徴とその違い	平安時代に盛んに造られた寝殿造りは、時代とともに衰退し、書院造りという新たな住宅形式を生み出すことになる。ここでは、書院造りの特徴について学習する。(A) 予習 (2時間): 寝殿造りと書院造りの違いについて、関連する文献を読んで整理しておく。 復習 (2時間): 書院造りの特徴と、各部屋構成についてどのような部屋があるのか、また、その部屋がどのように使われていたかや、各部屋に置かれていた家具や装飾についてまとめておく。
8	城郭建築	時代とともに城郭建築はその役割を変えていく。ここでは、古代・中世における城郭建築の特徴と、戦国時代以降の城郭建築の特徴を比較し、その違いを事例を通して学習する。(A) 予習 (2時間): 日本国内にある城郭建築について、時代別にみたお城の役割について関連する文献を読んでおく。 復習 (2時間): 城郭建築の作り方の特徴や、お城を構成している各部屋について、それぞれの役割や使われ方を整理しておく。
9	古代オリエント・古代エジプト建築	都市には居住、神殿、宮殿が建てられるが、神殿、宮殿には記念碑性が求められ、巨大な建物が計画される。これらの計画意図と、高度な建築技術、デザインについて学習する。(L) (A) 予習 (2時間): 西洋建築についてギリシア時代の建物や、パルテノン神殿について関連する文献を読んでおく。 復習 (2時間): 寝殿や宮殿の構法や、柱のデザインの特徴やその違いについて整理しておく。
10	ギリシア建築	古代ギリシアでは、各地にポリスと呼ばれる都市が誕生する。その都市には、公共施設や娯楽施設などの都市施設が誕生する。これらの施設の機能やそのデザイン手法について学習する。(L) (A) 予習 (2時間): 古代ギリシア時代の神殿が建築されたポリスについて関連する文献を読んでおく。 復習 (2時間): ポリスの役割や、ポリス内にある神殿の特徴や違いについて整理し、さらに柱等に使われているデザインの違いについて整理しておく。
11	ローマ建築	ローマ建築は、ギリシア建築の影響を受け発展していく。建物は円形闘技場、公共浴場などの公共施設が出現する。ここでは、水道を架けるためのアーチ、建築物の天井を覆うヴォールト、ドームなどの優れた土木・建築工学について学習する。(L) (A) 予習 (2時間): ローマ時代の建築とくにコロッセウム、公共施設 (図書館、浴場) について関連する文献を読んでおく。 復習 (2時間): コロッセウムのデザインの特徴、浴場施設の平面計画について、どのような特徴があるのか整理しておく。
12	キリスト教建築・ビザンツ建築	キリスト教の信仰が栄え、各地で教会建築が出現するようになる。ここでは、キリスト教建築の2大形式である「バシリカ式」と「集中堂式」の特徴について学習する。また、イスラム教のモスクとして利用されているビザンツ建築についても学習する。(L) (A) 予習 (2時間): 教会建築の事例を関連する文献で調べておく。 復習 (2時間): キリスト教建築の大きな違いを整理し、さらに、教会建築の平面計画の特徴や役割についても整理しておく。
13	ロマネスク建築・ゴシック建築	キリスト教建築、ビザンツ建築に並び教会堂建築における最高の知識・技術・芸術が集約されたロマネスク建築の特徴について学習する。また、ゴシック建築の作品の特徴についても学習する。(L) (A) 予習 (2時間): キリスト教建築、ビザンツ建築、ロマネスク建築など、各建築様式の代表作品について事前に関連する文献を読み調べておく。 復習 (2時間): 各様式の特徴を整理する。また、ゴシック建築においては、建築の様式および、新たな構法や各部名称についても整理しておく。
14	近代建築1	産業革命以降、鉄やガラス等の新しい建築材料の発展もあり、過去のあらゆる建築様式や建築要素の中から自由な選択ができる時代にはいる。ここでは、この時代に活躍した代表的な建築家とその作品の事例を紹介していく。(L) (A) 予習 (2時間): 近代建築における有名建築家とその作品について事例をできるだけ多く目をとおしておく。

		<p>復習（2時間）：建築材料が建築にどのような影響を与えるのか。また、この時代に活躍する建築家およびその作品の特徴を整理しておく。</p>
15	近代建築2	<p>明治維新以降の日本国内に新たに導入された西洋建築について、これまでの伝統的な日本建築がどのように変化したのか多数の作品を通して学習していく。 (L) (A) 予習（2時間）：日本国内の建築作品をなるべく多く調べておく。また、建築家についても同様にしらべておく。 復習（2時間）：授業内で紹介した作品だけでなく、国内を含め、世界各地の建築作品についても自らしらべ、その違いや、共通点などについて自らの考えをまとめられるようにしておく。</p>
DP / ナンバリング		ラDP1/L3A204
授業の到達目標・学修成果		<p>建築の歴史では、時代や地域別に様々な有名建築をビジュアルで紹介し、それらの建物が持つ意匠の概念や、高い建築技術について学習することで、伝統的な建物形式から近代建築に至るまで様々な建物に関心をもってもらう。</p>
成績評価の対象となる項目・配分		
項 目		配 分
確認小テスト		20
レポート課題・エルキャンパスに提示する課題		30
期末試験（筆記試験）		50
		%
		%
		%
		計 1
		00 %
上記以外の対象となる事項	毎回復習としてエルキャンパスに確認テストを実施してもらう。	
教科書	毎回授業で適宜資料を配布する。	
参考書	授業時に別途補助資料を配布する。	
授業に関する質問等の方法	初回授業で担当教員に確認をしてください。	
備 考		